

先人の知恵と努力 「農」の“資産”を知っていますか？

先人たちが切り拓いた「農」の資産

日本のかんがい農業の歴史は、2000年以上あります。1粒から2000粒を实らせる栄養豊かな米が、江戸時代にすでに3000万人以上の人を養い、この国を栄えさせてきました。

そして、その裏に先人たちが切り拓いてきた「農」の“資産”ともいべき、水路開削やため池造成、そして新田開発の技術があったのです。

先人たちの知恵と努力の集積である「農」の“資産”。いまも、日本各地で活躍しています。あなたは、日本が世界に誇るべき、素晴らしい「農」の“資産”を知っていますか？



堅牢な石積みの棚田 佐賀県 藤野の棚田

佐賀県唐津市相知町にある藤野の棚田は、日本の棚田百選の一つ。4つの谷にまたがった40haの棚田すべてが石積みです。江戸時代から昭和初期に造成され、水源は、山の谷水と山の頂上につくられたため池です。石積みのなかには、8.5mの高さを誇るものもあります。



写真:水と土電子博物館

水を通す巨大な石橋 熊本県 通潤橋

日本最大の水を通す石橋、通潤橋は熊本県山都町(旧矢部町)にあります。江戸時代、干ばつに苦しむ白糸台地に水を運ぶため、惣庄屋・布田保之助らによってつくられ、1854(安政元年)年に完成。水路総延長30km、かんがい面積約42ha(現在約170ha)です。国重要文化財。



写真:水と土電子博物館

山から谷を通り、向かいの山へ 兵庫県 御坂サイホン

兵庫県三木市にある淡河川疏水は、1891(明治24)年に完成した総延長26.3kmの用水。途中、サイホン工法で川を横断しています。山から谷を通して、向かいの山へ水を運ぶ画期的な技術でした。サイホンの管長は750m。その中央部、志染川を渡る水管橋は石造りの眼鏡橋です。



写真:水と土電子博物館

日本唯一の石積みアーチダム 香川県 豊稔池

香川県観音寺市(旧大野原町)にある豊稔池の堰堤は、日本で唯一の石積みマルチプルアーチダムです。1926(大正15)年に着工、1930(昭和5)年に竣工したもので、当時の常識を打ち破る画期的なダム形式でした。堤の高さ約30m、堤長145m。国登録有形文化財。

写真:東城範明氏撮影「豊稔池」
(社)農村環境整備センター発行
「農の営みがつづいた日本の景観」



三大難所に隧道を掘って 富山県 室山野用水

富山県滑川市、室山野用水路の昭和初期の写真です。室山野用水は、富山県三大難所に用水路を通した江戸時代後期の天才土木技術者、椎名道三によるものです。不可能とされた山の高い崖つがちに水路をつくり、山の岩肌を手で掘った、水を通す隧道がいっつもあります。



写真:水と土電子博物館

江戸時代の大規模水路開削 埼玉県 見沼代用水

見沼は現在の埼玉県さいたま市にあった大沼です。1725(享保10)年、新田開発の必要性から干拓された見沼の代わりに、利根川から約60kmの水路を半年で引いてきました。見沼代用水をつくった井澤弥惣兵衛の技術はいまも高く評価されています。図は、見沼代用水元付付近鳥瞰図。



図:見沼土地改良区所有・埼玉県立文書館保管

泥炭地を一大酪農地に 北海道 サロベツ原野開拓

北海道天塩郡豊富町サロベツ地域は、一面に泥炭の湿地帯が広がる地域でした。戦後、緊急開拓事業の入植に伴い、直轄明渠排水事業や総合農地開発事業などが展開され、広大な湿地が農地へと変わりました。そして、牧草地が広がる日本最北の一大酪農地帯となったのです。



写真:水と土電子博物館

低い沼から水を汲み上げる水車 千葉県 印旛沼



千葉県佐倉市など3市4町村にまたがる印旛沼は、周辺の土地よりも低い位置にあります。そのため、足で踏んで水を汲み上げる「水車(みずぐるま)」が利用され、人々は稲作を営んできました。また戦後、大規模干拓が行われ、治水利水が進んだほか、広大な農地が生まれています。

写真:千葉県本埜村 故・吉植啓夫氏提供

明治時代を代表する大事業 愛知県 明治用水

愛知県のほぼ中央を流れる矢作川から取水する明治用水。安城市を中心に約7000haを潤しています。開削当時、明治本流は幅7.2mと船を通したほど太く、1881(明治14)年に幹線総延長52kmが完成。支流約40本も4年後に完成し、ほぼ現在の流れとなりました。



写真:水と土電子博物館

小さな田んぼ——まさに千枚田 三重県 丸山千枚田

三重県南牟婁郡紀和町の丸山千枚田は、約7haに1340枚の田んぼが連なっています。400年前には7町歩に2240枚あったと記されていますが、1992年には518枚に減少。その後、地元保存会の力で1340枚まで復元され、名前の通り千枚田となっています。



写真:水と土電子博物館